

まずは“家庭デビュー”を！

ちやうど昨年のごころですが、シヨッキングなレポートが、ある新聞に載りました。

「老後に夫と同居↓妻の死亡リスク \times 倍」との見出し——愛媛県のある医



長が高

齢者3000人について調査した結果、男性は妻がいる場合、いない場合に比べて死亡リスクが0.46倍に下がっていた、というのです。

夫の存在が妻に負担を？

医長は「夫の存在が妻に負担をかけている一方で、妻に先立たれると夫は身の回りのことを助けてくれる存在を失い、逆に死ぬ危険性が高まる。夫が家事などを覚えて自立することが大切」と話しているといえます。

確かに「妻に先立たれた高齢者男性の平均余命は ∞ 年、夫が先に亡くなった妻の平均余命は15年」と俗に言われています。男はまず食べていくことの不便に直面するのに対して、女はうるさい夫がいなくなつてせいせい、ますます元気になつていく、というわけでは

面白おかしくするため、若干の誇張があるかもしれませんが、本質的な実態であることには変わりませんね。

今、定年後の“地域デビュー”が話題に取り上げられています。私は、まずは“家庭デビュー”だと思っています。炊事、洗濯等の家事を手伝う、または分担することです。

「男、厨房に入るべし！」

男は沽券にこだわりがちですが、会社を辞めればただの人。今度は夫として家庭また地域での生活が始まります。私自身、定年後に料理とは夢にも思いませんでしたが、やってみると面白い。なによりもグンと世界が開けていきます。まさに「男、厨房に入るべし」の時代です。先のレポートを読むにつけ、すでに定年になった、またこれから定年を迎える皆さんに「まずは料理から」とわが経験からお勧めする次第です。

洗濯については、ときどき洗濯物を干す程度です。マンション・ベランダの陽だまり・・・。「下着干す 手に柔らかく 妻のこと」手伝いをしながらこんな川柳を詠んでいたところ、日本ペンクラブでの講演米原万里：一昨年亡くなりましたに、この後を受けるピタリの小咄がありました。

——まず、男は慌てることなく、優しい手つきでスカートを下ろした。はやる心を抑えて、ゆつくりとブラウスをはいだ。

次にブラジャーのホックを外して引つ張ると、ブラジャーはそのまま男の足下にパタリと落ちた。それから男は、一気にパンティを引きずり下ろした。

今や、男の前には、むき出しの洗濯ロープがあつた・・・。(笑い)

※

この洗濯ロープが最初から分かっていると、ちつとも面白くない話ですが、皆さんが何を想像したのか知りませんが（笑い）、そちらの方に想像力がいくように最大限、力を尽くすわけです。そうすると、男が単に洗濯物を取り入れているという平凡な風景が笑い話になるわけですね——



初めは少々エッチのよう
に思われながら、なか
なか上手などんでん返
し。洗濯をしながらも
楽しんでいく——愉快

で面白くシニアの人生を輝かせていきたいものです。 (エッセイスト 山川 剛)